

## 平成 28 年度第 5 回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：平成 29 年 2 月 17 日（金） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分

■開催場所：職員会館かもがわ 3 階 大多目的室

■議題：

- (1) 京都市市民参加推進計画の推進に関する成果や課題等の分析
- (2) 平成 28 年度第 2 回市民公募委員サロンの開催について

■報告事項：

- (1) 新たに設置された附属機関等に係る協議結果について
- (2) 市民参加に関係する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者

市民参加推進フォーラム委員 11 名

荒木委員，内田委員，太田委員，兼松委員，芝原委員，杉山委員，竹内副座長，津田委員，樋口委員，壬生座長，吉川委員

■傍聴者

1 人

■特記事項

動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）による会議のインターネット中継を実施

【議事内容】

### 1 開 会

<事務局>

定刻となったので，ただいまから，「京都市市民参加推進フォーラム」平成 28 年度第 5 回会議を開催する。

本日はお忙しい中お集まりいただき，ありがとうございます。

私は，本日の進行を務める，京都市総合企画局総合政策室創生戦略・市民協働推進部長の松野です。

市民参加推進フォーラムは，市民参加の推進に関する事項について，市長の諮問に応じ，

調査、御審議いただくとともに、当該事項について御意見をいただく機関として設置している附属機関である。

はじめに、委員の欠席について報告させていただく。川島委員、桜井委員、松下委員、宮西委員が御都合により欠席されている。また、内田委員、津田委員が、遅れて御参加になるとの連絡をいただいている。現時点で、委員総数15名中9名の委員が御出席ということで、出席委員が過半数を超えており、本会議は成立していることを報告する。

なお、本日の会議については、公開とするとともに、インターネット上の動画配信サービスである「ユーチューブ」を利用した生中継を行うので、御了承いただきたい。

本日は、平成28年度の最後の会議であるので、議事に先立ち、京都市総合企画局長の藤原より御挨拶をさせていただく。

#### <藤原局長>

京都市の藤原です。毎回、多数の委員の皆様が集まっていたいただいていることについて、まずは、感謝申し上げます。今年度のフォーラムでは、第2期京都市市民参加推進計画改定版に基づく事業について、成果や課題を議論していただいた。「景観市民会議」「みつけ隊アプリケーション」の2つの事業については、皆様から深く掘り下げた議論を通じて、暖かい評価をいただいております、心より御礼申し上げます。

行政に対する市民の皆様のニーズが多様化する中、市民参加・市民協働はなくてはならないものだと考えている。現在開催されている市会において、来年度の市の予算案について、議論がされている。市が提案する予算案では、「参加と協働による、地域の個性と活力あふれるまちづくり」を4つの重要な柱の一つとして掲げている。市民参加・市民協働の取組を、市政のあらゆる分野において、さらに進めていこうという決意のもと臨んでいるところである。

委員の皆様のお意見をしっかりと受け止め、庁内の隅々の職員にまで行きわたるように伝えていきたい。また、分析結果については、市民の皆様にも分かりやすく発信していく。

本日は、今年度最終の会議ともなるが、最後までどうぞよろしく願いいたします。

#### <事務局>

それでは、この後の議事については、壬生座長をお願いします。

#### <壬生座長>

本日も、足元の悪い中お集まりいただきありがとうございます。少し暖かくなったところだが、体調を崩しお休みの委員もおられるとのことなので、皆様もくれぐれもお気を付け下さい。また、今、局長から、京都市の取組について話を聞き、身の引き締まる思いである。本日も、しっかりと議論をしていただきたい。今年度最後という事もあるので、うまくとりまとめにつなげたいと考えている。よろしく願いしたい。

まずは、本日の議題及び報告の流れについて事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(議題と報告事項の説明)

## 2 議題

### 議題（１）京都市市民参加推進計画の推進に関する成果や課題等の分析

<壬生座長>

では、「議題（１）京都市市民参加推進計画の推進に関する成果や課題等の分析」の資料について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

まず、「資料２」を御覧いただきたい。これが、分析の本編になるもので、前回の会議で御指摘いただいた部分を修正したものである。

「資料１」は、資料２のポイント部分を抜き出したものである。

「資料３」は、市民の方に読んでいただくために作成したものである。

<壬生座長>

では、まずは「資料２」について、前回からの修正箇所について確認をしたい。事務局より説明をお願いします。

<事務局>

前回の会議でいただいた指摘や、文章の言い回しが気になる点について、修正を行った。

修正箇所は多数あるが、主な箇所については、網掛けをして示している。

景観市民会議の分析結果にあたる、９ページ以降については、前回の会議で、内容に関する大きな指摘はなかったが、文章の読みやすさの点での指摘等があったため、表現などを大幅に変更し、具体的な記載を増やしたため、網掛けが多くなっている。

(資料２「市民参加の視点からみた事業分析について（本編）」について説明)

略

<壬生座長>

資料２について何か御質問や御意見はあるか。

<兼松委員>

みつけ隊アプリのポイント４（５ページ）の「京都市独自の機能」という表現について、

どのような機能なのか、読み進めると書いているが、ポイント部分だけでは分からないので、若干もったいないと感じた。

また、「京都市独自」という記載については、「他都市にはなかった機能を始めて取り入れた」などと言い換えることができる。「京都市独自」と言ってしまうと、この機能はオリジナルであって真似してほしくないと聞こえるが、この評価にはもっと開かれたニュアンスを与えたい。

このアプリの機能については、すごい話だと感銘を受けている。

#### <樋口委員>

みつけ隊アプリのポイント1（4ページ）に、「上司が若手職員を応援する土壌があった」という記載がある。土壌が昔からあるという事は、過去にもこうした市民協働の取組が複数生まれていないとおかしいと感じる。昔からというニュアンスでない方がよいのではないか。

また、ポイント5（5ページ）では、「市民意見を聞いたことが、仕事への充実感へと繋がっている」となっているが、市民意見を聞いて、施策にその意見を採用したことで、実際に問い合わせやクレームが減り、それが仕事への充実感に繋がったのではなかったか。

また、ここには、「参加者から前向きな意見が多数出されたことで」と書かれているが、前向きな意見だけではなかった。「いろんな意見が出た」ということが重要だと思う。ワークショップの参加者からの「マイナスの情報も出せるのか」という問いに対して、「出します」と応えたことを評価したい。単に「前向きな意見」とくることがもったいない。

#### <竹内副座長>

確かに、ワークショップでは、アプリを作ることを応援しようとか、アプリはいいよねと言う意見だけが出てきたわけではなかった。いろんな意見が出てきたからこそ、いろんなやりとりができたということである。

#### <事務局>

ポイント1について、アプリを作ったのは27年度で、庁内プロジェクトは25年度から始まっていた。そのため、「応援する土壌があった」という書き方にしていたのだが、具体的にどのように変えればいいのかについてお聞きしたい。

#### <樋口委員>

例えば、これまでであれば絶対に通らなかつたであろう「〇〇アプリプロジェクト」という名称についても、上司が通した。「今回は、若い人が言ってきたことを取り入れよう」という上司の意思があったとのことだった。組織の文化だったのか、ある人の決意だったのかで、このポイントの書き方は変わってくる。

<兼松委員>

組織の文化だったというより、属人的な、上司の懐の深さという事になるかもしれない。

<事務局>

行政の組織では、一人が良しと言えばその意見が通るようなものではないので、組織的にそういった雰囲気があったのだろうというトーンでこれまで議論いただいていたと認識していた。

<樋口委員>

「機運があった」といった表現の方が近い。そこで、実際にやってみて、他の職員も「これはいい」という充実感が広がったのではないか。

<壬生座長>

景観市民会議に関する御指摘や感想などはどうか。

<芝原委員>

みっけ隊アプリとの書き方のバランスが気になっている。みっけ隊では、ポイントの説明の最後の部分で、「～を期待する」という表現が散見されるが、これはフォーラムが期待するということになると考える。景観市民会議の方は、そういった表現が見られない。「期待する」ばかり増やしてもそれはそれで文章のトーンは良くないので、バランスとトーン見極めつつ、訂正が必要だと感じる。

<竹内副座長>

この資料2は市職員が読むものとして作成している。市職員に向けて、ここに書いてあるようなことを、「期待する」ということになるという意味では、景観市民会議のポイント2は、「どうすれば市民の関心を引くのか市民が気軽に参加できるのかという事を意識した企画力の高い会議だ」とフォーラムが検証したという事だけではなくて、「その視点は他の部署でも参考にできる」ということまで書きこむべきである。

<荒木委員>

7ページの、景観市民会議の特徴について、「PDCAサイクル」と言っ、どれだけの市職員が理解できるのかが気になる。新規採用の職員でも、これを読んですぐ理解できるよう、「PDCA」が何を示すのかは書きこんだほうが良い。

<壬生座長>

意見がある程度出たようなので、事務局より、資料1についても説明をお願いします。

<事務局>

資料1については、資料2と同様、職員向けのものである。資料2は分量が多いため、ポイントのみを抜き出して資料1とした。

前回の会議では、ポイントの部分を一般化して、例えば「若手職員の意見を尊重する」「市にとってマイナスと思える情報も積極的に共有する」という記載にしていた。しかし、一般化したことにより、抽象的で、読み飛ばしてしまう恐れがあることから、資料2のポイントをそのまま抜き出す形とした。

<壬生座長>

資料1のポイントだけ読んでも、意図が伝わるのかという視点も含め、意見を伺いたい。

<吉川委員>

「みっけ隊アプリ」の企画段階でワークショップに取り組んだとか、「景観市民会議」という事業があるという事について、市職員全員が、基本的に知っているという前提でよかったか。

<事務局>

「みっけ隊アプリ」は、目新しく、様々な広報もされていたので、多くの職員が知っていると思う。「景観市民会議」は、景観政策について京都市の基本的な政策として知っていたとしても、詳細は知らない職員も多いかもしれない。

<吉川委員>

「みっけ隊アプリ」は、概要の部分で企画のプロセスが書かれているが、アプリの概要が短い言葉で書かれていた方が、より印象が深まるのではないか。

<壬生座長>

景観市民会議についても同じことが言えるかもしれない。

<竹内副座長>

みっけ隊アプリについては、最近、報道でもよく取り上げられてるので、30文字程度でまとまっている印象がある。景観市民会議を簡潔に説明するのは難しいと感じる。

<兼松委員>

話が変わるが、局や部署名は書かれていた方がいい。

また、景観市民会議のポイントは、確かにこれを読んでもわからない。例えば、ポイント1に「2本柱の1つ」と書かれているが、資料2を読まないと2本柱が何なのかは分らない。ここでは「柱の1つ」で構わない。

<竹内副座長>

そもそも、フォーラムが今年度取り組もうと思ったことは、事業分析を通じて、意外な事業であっても市民参加に取り組んでいて、そこには市民意見を聞こう、市民意見を自分たちの事業に活かそうという気持ちを持った職員がいるという発見、京都市としてもそれを後押しするシステムや体制を作っているという発見をすることにより、「京都市が市民参加についてがんばっている」という共通認識を持ち、さらに、他の部署の職員にも、「それだったらうちの部署でもやれそう」と思ってもらおうという事だった。

この1枚を読んだだけで、「それだったらうちの部署でもやれそう」と思ってもらえるかどうか、そのことが、不安になってきた。

<兼松委員>

「上司は若手職員を応援すべし！」というように書くのはどうか。

<竹内副座長>

職員の持つ意識に対して、そこまで書くのはつらい。京都市の職員は優秀なので、これさえ見ていただければフォーラムの言いたかった意図を読み取ってもらえるのかもしれない、よく分らなくなっている。

<樋口委員>

若手職員がこれを読んで、これまで市民参加という観点が薄かった事業でも、「市民参加でやってみたい」と思い、上司に対して提案してくれるとうれしい。そういった意味でも、「土壌があった」という言葉は替えたほうがよいと思っている。ぜひ、上司の、若手を育てようという「気運がある」と言う方がいいのではないか。うちの局長だったら大丈夫だけど、あの局長だったら、課長だったらダメだ、という方向にならない方がいい。

これを読んで、こういう良いことが起こるのであれば、これまでの前例を多少変えてでも、一度やってみようかと思ってもらえれば良いと思う。

<竹内副座長>

そもそも、今回の事業分析は、自ら関わってもいない事業について聞かせてもらって、「良い」とか「悪い」とか言うような僭越なことをしてもいいのかと迷いもあった。しかし、ヒアリングをさせていただくと、担当部署の職員が「こんな風に市民の方が自分たちのやっていることを理解して、応援したり評価してくれたりすると、次の力になる」と言って

くれた。一つ一つの取組等の良い事も伝えたいが、こういった輪を広げたい。

市民には受け入れにくいのではないかと考えていた「予算は限られていて、優先順位をつける必要がある」という情報を、市が伝えたことで、「それなら自分たちでもできることがある」という市民の声を聞くことができた。面倒かもしれないが、市民の声を聞いてみたら、市民の自主的な活動も広まったというようなことを、もっと広げることができたらいいと思う。

<吉川委員>

先ほど兼松委員のおっしゃった、「若手の意見を上司は聞くべき」といった、端的でエキセントリックな言葉をぼんぼんと並べた方が、読み飛ばされずに目に入るのではないかとと思う。行政として文章を書く際に、難しいということも理解できるが、そのような勇気があっても良いのではないか。

<荒木委員>

どのような言葉遣いをするかどうかではなく、どのようにこれを読んでもらうかということなのではないかと思う。どういう形で職員に渡すのか、そのプレゼンの仕方によって、受け取り方が変わるのかと思う。

<吉川委員>

この資料を職員に周知する際に、説明があるのか。

<事務局>

この資料の周知として、まずは、市長、3副市長、各局長等が参加する「市民参加推進会議」を開催し、報告することになっている。組織の上の方からはそのような周知とし、下からも、地道に周知をしていくつもりである。市民参加推進会議で、市長から良い意見を出してもらえたらと思う。

<吉川委員>

ここに書かれていることはその通りなのだが、竹内副座長がおっしゃったような好循環が、この資料を読んで生まれてくるかということ、腑に落ちない気持ちがある。読んだ職員の方の意識や感性が高ければこれで伝わるかもしれないが。

<兼松委員>

これを読んだ職員が、例えば10人ぐらい募って、「みつけ隊」や「景観市民会議」の担当職員に直接、話を聞きに行くような動きに発展してくれたいと思う。ゲストになり、ストーリーテラーになって、ぶっちゃけ話とかもその場で共有できるようなことが起これ



ばいい。

<事務局>

例えば、毎年4月に、新規採用職員のための研修があるので、そういったところでは伝えていけると考えている。資料として端的に伝えられるものもあれば、具体的に説明をしないと伝わらない情報もある。

<樋口委員>

概要版なので、全てを盛り込むことはできないし、その必要もない。

<壬生座長>

ポイントを全部並べるずに、1つか2つピックアップして、分りやすく書くことは可能ではないか。

<兼松委員>

「良かったところ」と、「ヒントになりそうなところ」という2つの枠組みが、資料1の中に混在している。

この2つをわけて、表のようにしてみるのはいかがでしょうか。

<事務局>

はじめに資料の作成に取り掛かった時に、それをやってみようとしたが、難しくてうまくいかなかった。

<兼松委員>

ヒントになりそうなところは、「良かったところ」から抽出してもいいかもしれない。例えば、景観市民会議のポイント1は、今の状態だと「良かったところ」に見えるが、ヒント化できるはずだ。

もしくは、問の形式にしてみる。例えば、「次にイベントをする時に、市民の関心を引きそうな人を呼んでみませんか?」「意見交換をする場を、検証システムの中に位置づけてみませんか?」という書き方が可能なのではないか。

<事務局>

資料1について、ポイントをどのように絞るか意見をいただきたい。

<杉山委員>

「みっけ隊アプリ」なら、ポイント5の「市民参加の手法を取り入れにくいと書いてい

たことにも、取り入れることができた」というのが、もっとも重要なポイントだと考える。見出しのように書くなら、「無理と書いていてもあきらめない」である。それから、「部下の意見も良く聞く」「本気で聞く」という姿勢を持つ「ネガティブなことも市民に開示」と書いて、その中で「本気で聞く」ために何を工夫したのかを落とし込むのがいいのではないか。

<内田委員>

「みつけ隊アプリ」のポイント3は、ぜひ残すべきである。行政が市民に対して思っていることと、市民が行政に対して思っていることは違う。市民と行政で、理解の基準が「違う」ということが分かったので、ネガティブな情報も伝えることにつながったのではないか。ポイントを絞るとしたら、

<竹内副座長>

「ネガティブ」という表現はそれでよいか。「伝えると否定的な意見が来るのではないかと思っていること」という意味か。

<内田委員>

「ネガティブ」ではなく、「伝えづらい」だと思う。あるいは、「これまで、伝えるべきではないと思っていたこと」。ここでは、その情報を出したことで、結果として市民からプラスの反応が来たということが、大きなポイントだと思う。

<樋口委員>

「京都市にとってマイナス」なのか、「市民にとってマイナス」なのかは、取り上げ方によって変わってくる。

<荒木委員>

ネガティブとかマイナスということではなく、「市民の理解が得づらいかと思うこと」であっても、直接話したことで、理解を得られたという表現が良い。

<吉川委員>

景観市民会議のポイント2で「市民の意見を聞く場と市民の学びの場」と書かれているのは、シンポジウム形式にしたなど、具体的な記載が必要である。

<樋口委員>

同じポイント2では、「行政に意見を言うという気負いを持たずに」と書くよりも、「面白そうと思って参加できる」という方がよい。明るい気持ちで参加できるということを強

調したい。

<内田委員>

職員にとって、面白そうと思ってもらふ工夫を考えるのが、難しい部分なのだと思う。例えば、職員だけで考えずに、外部に知恵を借りられるなど、職員向けには、そういった部分がポイントになると思う。

<壬生座長>

担当の職員は、常に「どうやったら市民の関心を引くのか」「どうしたら参加のハードルを下げられるのか」といった事を考えていた。ただし、それをどうやって考えられるのかということ、言葉に落とし込むのは難しい。

<内田委員>

職員向けの資料1と、市民向けの資料3の両方が必要なのか。

<事務局>

資料3は市民向け用に作ったものであり、職員向けの資料1とポイントの記載が異なる。

<吉川委員>

資料3の目的は、市民参加の輪を広げるとうことでよかったか。

<事務局>

京都市が市民参加を積極的に進めているアピールをすることにより、結果として輪が広がることを期待している。

<樋口委員>

資料3のリード文について、かぎ括弧の使い方が統一されていないので、整理した方がよい。また、フォントももう少し統一した方がよい。

「みっけ隊アプリ」について、「ワークショップの名称も工夫」と書いているが、「○○アプリ」という名称を記載した方がよい。また、「草むしりは自分達でできる」という記載は、草むしりだけでなく、ゴミ掃除も記載した方がよい。

<竹内副座長>

デザインについて、市民参加推進フォーラムや市民参加推進条例の記載を小さくして、例えば、「はじめーるさん」と「つながーるさん」の社会見学という形にするなど、楽しそうと思ってもらえる工夫があればよい。

こういった流れで分析をして、この資料ができたというストーリーになってるとよい。「はじめーるさん」と「つながーるさん」に、はじめて見たポイントと繋がりを生んだポイントを示してもらってもよい。

<吉川委員>

このリード文は必要かもしれないが、普通の市民からすると関係ないと思うかもしれない。「はじめーるさん」と「つながーるさん」というキャラクターに、「市民参加の代表の方にチェックしてもらっています」と吹き出しをつけることも考えられる。

<兼松委員>

事務局はデザインのプロではなく、またデザインは全体会議の場で議論するより、少人数で考える方が馴染むものだと思う。

<内田委員>

市民向けの資料については、プロのデザイナーにお願いするというのも、今後、検討してもよいのではないか。

<壬生座長>

沢山の御指摘ありがとうございます。御意見を踏まえ、事務局と相談し、できる範囲で修正を行っていく。

## **議題（２）平成２８年度第２回市民公募委員サロンについて（案）**

<壬生座長>

次に市民公募委員サロンについて、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

（資料４について説明）

<荒木委員>

「パネラー」という記載は「パネリスト」が正しい記載である。

<壬生座長>

前回提案のあった、ファシリテーショングラフィックは取り入れるということでよいか。

<事務局>

ファシリテーショングラフィックについて、説明をさせていただく。会議などの内容をイラストや文字でわかりやすくまとめていただくものであり、それを見て後から振り返ることができる。また、場の雰囲気盛り上げることにもつながる。

<壬生座長>

パネルディスカッションにおいて、進行役を決める必要がある。希望される方がいれば、お願いしたい。

<兼松委員>

進行は私がやってもよい。

パネリスが3人であれば、20分は時間が短い。自己紹介なども必要であり、30分必要である。交流は25分×2ラウンドでどうか。

参加者は、市民公募委員としての立場で参加するが、NPOや地域活動など普段の活動はあまり出さない想定になっているが、それがいいのかどうか。

今、想定している質問である「附属機関の会議で充実感を得た瞬間」は、皆さん同じである可能性がある。市民公募委員としての活動を日常の中でどう位置付けているのか、そういう話の方が広がりがあり、楽しいのではないか。

<壬生座長>

ちなみに、参加者の所属する会議などは、一覧として参加者にお渡しする予定である。

<竹内副座長>

パネリストとしてフォーラム委員も1人参加した方がよい。

兼松委員に一任するので、考えておいてもらいたい。

<竹内副座長>

他のフォーラム委員は、テーブルでの話を聞き出す役や、記録などの役割をお願いしたい。当日は、可能な方は早めに集まって打合せをしたい。

<壬生座長>

グループ分けは、出席者の人数がわかってから、ギリギリになるかも知れないが、お願いしたい。詳細は、事務局からメールでお伝えしてもらう。

### 3 報告事項

#### 報告事項1 新たに設置された附属機関等について

<壬生座長>

それでは、報告事項に移る。まずは「報告事項1 新たに設置された付属機関等について」事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(資料6について説明)

略

<壬生座長>

質問や御意見をお願いします。

<兼松委員>

①の「小児慢性特定疾病児童等地域支援協議会」について、医師や教育などの専門家等で構成するため、市民公募員は選定しないといことであるが、例えば疾病児童をもつ親御さんなどは委員になる可能性はあるのか。当事者が居る方がいいのか、居ない方がいいのか教えてもらいたい。

<事務局>

現状では、医師、行政関係者、専門のカウンセラーが委員となっており、保護者の方は入っていない。ただし、家族の方がヒアリング対象となっている。

## 報告事項2 市民参加に関する新しい事業や取組

<壬生座長>

「報告事項2 市民参加に関する新しい事業や取組について」、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(資料7について説明)

略

<壬生座長>

質問や御意見をお願いします。

<兼松委員>

「マクドナルドに右京区の情報拠点が生誕」という内容について、マクドナルドから持ちかけがあったのか。私は、そちらの方がいいと思っている。また、右京区の公式拠点

とう位置づけとなるのか。

<事務局>

フランチャイズのオーナー方からの申し出があったものである。右京区の公式拠点ではなく、主体はマクドナルドである。

<竹内副座長>

右京区は、公的な情報を得にくい地域であり、民間のオーナーの方が公共情報の拠点を作られるのは面白い。

<太田委員>

「京都文化力プロジェクト ワークショップ」は、私たちも参加できるのか。

<壬生委員>

報告事項は終わりであるが、事務局から他に何か報告はないでしょうか。

<事務局>

現在、フォーラムの公募委員を募集中であり、周知の協力をお願いしたい。

また、市民参加のポータルサイトを12月に開設したところであり、こちらの広報の協力もお願いしたい。

<壬生委員>

本日の予定の議題、報告事項全て終了した。本日の議論を踏まえて、事務局と一緒に資料を修正していく。また、来年度の取組については、来年度の1回目の会議でお示しい。

樋口委員が今年度で任期終了であるので、最後に一言、御挨拶をいただきたい。

<樋口委員>

皆さん2年間お世話になりました。来月の市民公募委員サロンが最後のお務めであり、がんばりたい。こういった会議で様々な発言をさせていただき、とてもありがたい。市の職員の方もいろいろと考えておられるとがわかったことも、自分の中では発見である。引き続き皆さんよろしく申し上げます。

#### 4 閉会

##### ■傍聴者の意見

<壬生座長>

傍聴の方から、コメント・感想をいただきたい。

<傍聴者>

私はいろいろなところに顔を出しているが、市民参加のネットワークが広がっていると感じる。また、地方公共団体の職員の方もがんばっておられる。市民公募委員の方が活発に話をされることで、どんどんまちが良くなっていくと思う。

<壬生座長>

ありがとうございました。

#### ■YouTube, ツイッターの反応について

<壬生座長>

では、ユーチューブの視聴者数やツイッターの発言状況はいかがか。

<事務局>

ユーチューブの中継は5人の方に御覧いただいている。

発言等は、特になかった。

<壬生座長>

ありがとうございました。では、進行を事務局にお返しする。

<事務局>

今日は最後の最後まで熱心なご議論ありがとうございました。また引き続きどうぞ宜しくお願いします。樋口委員お世話になりました。これからも御支援、御協力いただけたらと思います。これで閉会といたします。

以上